

水の色が変わった

この実践は、「4歳児が、水の色が変わった現象の面白さに惹かれ、次第に色付きの氷作りや混色などへと興味を深めていく事例」です。本実践の園は、6年間、子どもの気づきに注目し、「気づきの観点をもって遊びの姿をよく観る」ことで、子どもの理解を積み重ねてきました。最初は小さな出来事や小さな気づきであっても、保育者が丁寧に受け止め、友達と共有する場を大切にすることで、子どもたちは、新たな気づきをし、さらに対象への興味を深め、体験を広げていっていることが伝わってくる実践です。

社会福祉法人長尾会 第2長尾保育園

4歳児

[8つの気づき]

①「あ! あった」と気づく	はじまり	あっ!と気づく 疑問に気づく(なんで?) あれ?何かな?(に気づく) 不思議に気づく
② 聞いて知る、聞いて気づく	情報収集	疑問や不思議に感じたことを調べて気づく
③ 五感を使って気づく	行動による直感的、感覚的の気づき	見て気づく 見比べて気づく 触って気づく 感じて気づく 匂って気づく
④ やってみて気づく	子どもの実際の行動	試して気づく(試行錯誤) 遊んで気づく(試行錯誤) うまくいかないことに気づく(試行錯誤)
② 聞いて知る、聞いて気づく		試したり、対象に関わったりの中で調べて気づく
⑤ 変化に気づく	情報収集	違いに気づく 同じということに(一緒)気づく *経験から気づく
⑥ 振り返って気づく	以前との比較	新しい気づきの共有 違いに気づく 同じに気づく 他者の意見を聞いて知る
⑦「こんなことができる!」新しい方法の気づき	方法	何度も繰り返す中で新しい方法に気づく
⑥「振り返って気づく」	新たな可能性	同じ物事について共有しさらに、確信になる気づき
⑧「こんなことができるのでは?」の気づき		新たな方法



水が茶色になっている

秋頃から飼育していたミノムシの餌として、プリン容器に水と木の枝と葉を入れていた。ある日突然、容器の水の色が透明から茶色に変わっていたことに気づいた子どもたちから、「どうして色が変わったのか?」との疑問が出た。そして、クラス全体に興味広がった。色水遊びに興味をもっていた子どもたちは、友達との話し合いが始まり、「葉っぱが原因ではないか」と気づいた。ミノムシの糞が原因と考えていた子どもたちは残念がった。その後、コップに葉っぱを入れて置いておくことになった。「どの葉っぱなら色が出るのか?」「何色になるのかな?」と楽しみにしながら、毎日観察していた。そして、戸外にも出してみるようになった。

場面1. 「いろいろな氷を作りたい!」

<1月下旬>

- ⑧「こんなことができるのでは?」の気づき
- ④やってみて気づく
- ③五感を使って気づく
- ⑤変化に気づく

- ・ 季節が冬になったので戸外に出した葉っぱの色水が凍った。子どもたちは、氷ができた喜んで、色水への興味は氷作りへと変わっていった。保育者が「どんな氷を作りたい?」と尋ねると、⑧「いろいろな種類の氷を作る」と言って、「色紙や花紙を入れたい」「砂糖を入れたら甘くなるかな?」と様々な考えが出た。
- ・ 水を置いて氷を作る場所も、自分たちで、「ここなら氷ができるかも?」と、友達と考えている場所に置いた。次の日の朝、凍っていることに気づいた子どもたちが、④「凍ってる!」③「固い」「冷たい」と、大喜びで皆に報告した。
- ・ みんなで観察に行くと、④紙も一緒に固まっていたり、葉っぱに氷がひっ付いたり、砂糖の水の氷の中にトゲトゲした形ができていることに気づいて、「これは何?」「何でできた?」「どこから現れたのか?」と、話題になった。
- ・ 氷を作ることが楽しくて、「次は氷を溶かしてみたい!」と、氷が溶けそうな場所を探した。また、「もっと凍らせたい」と、戸外に再び置きに行く子どももいた。すると、氷が溶けて水になったのを見つけた子どもが、「これ、色付いてる」と気づき、⑧「もっと色の付いた氷を作りたい」と、発展していった。
- ・ 保育者は、子どもたちの気づきや、話し合ったことを可視化して、掲示した。



紙も凍ってる



トゲトゲができてる



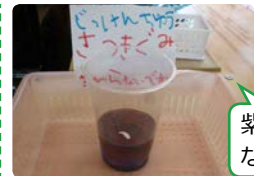
- ④やってみて気づく
- ②聞いて知る、聞いて気づく
- ⑥振り返って気づく

場面2. 「色水を作るには? ~色の付いた氷を作りたい!」

<2月上旬>

- ・ 薄い紫の色水は花紙を水に混ぜたことでできたが、④水色の画用紙や折り紙は色水にならなかったことで、色が出る素材と出ない素材があることを知った。しかし、何が違うのか?何が要因なのか?分からずに②話し合いを重ねていた時、「分かった。水が違うのかも?」という意見が出た。

- ・そこから。水を水ではない色にするには…と話し合った結果、⑥2歳の時の遊びを思い出した子どもが、「すみれ組の時にした、ペットボトルのアワアワと違う？」と言う。すると、「…そうや！あれも色水になってたやん」「魔法の水…やったっけ？」と担任の顔を見るので、「魔法の水やったと思うけど、何で作ったか覚えてる？」と聞く。全員で考え込んでいたが、ヒントを出すと、「洗剤や」と、思い出した子どもがいた。
- ・そこで紙は画用紙で、色は2色で、水と魔法の水の両方で作った。子どもたちは、「色水も作りたいけど氷にもしたい」との思いがあり、作った水は戸外に出しておくことになった。
- ・次の日に見に行くと、氷にも色水にもなった。でも、水も魔法の水も両方も色が変わっているように見えたため、溶かして水に戻してみることにした。
- ・月曜日に観察しようとしたら、0歳児が触ってしまい、こぼれてなくなってしまった…しかし0歳児担当の職員がもって来てくれた容器を見ると、⑤赤と青が混ざっていて、色が紫になっていることに子どもが気づき、「先生！色が紫になってるよ」「何でなん？」⑦「赤と青が混ざったら紫になるの？」と、発見に興奮する姿が見られた。そこからは、⑧いろいろな色を作って、さらに混ぜて作る色水作りが始まった。今までに経験したことを生かし、透明の容器に画用紙か花紙、魔法の水などを組み合わせ、作ってよく観る姿があった。



紫になった



色水になった紫になった

- ⑤変化に気づく
- ⑦「こんなことができる!!」新しい方法の気づき
- ⑧「こんなことができるのでは？」の気づき



黄色と青で黄緑になった

場面3. 「これとこれを合わせるとこの色になる! ~好きな色を作りたい~」 <2月下旬~>

- ・④作った色水を混ぜ合わせていろいろな色を作ってみたが、なかなか好きな色にならず、紫と黄緑しか作れなかった。そこで、初めから画用紙を混ぜて作ってみることにしたが、何色と何色の紙を混ぜておくかで悩んでいた。ある日、自由画帳に絵を描いていたAさんが、「先生！見て！」と、興奮しながら⑦「白い紙に黄色でお絵かきした上からピンクのペンで描くと、色が混ざって赤になった」と、教えてくれた。
 - ・そこで、すぐに画用紙で作り始めた。画用紙に描いたときは、黄色が下だったと黄色を下にして、ピンクが上になるようにコップの中に入れ、こだわって作っていた。
- Bさん：「しっかり混ぜたら変わるかな？」
Cさん：「赤じゃない…なんで!?ペンと何が違うのかな？」
- ・しかし、④観察していくと、赤にはならずオレンジになった。どうしてものはわからなかったが、時間が経てば変わるかもしれない!?と観察し続けていた。



赤になった、凄いな何でやろ



- ④やってみて気づく
- ⑦「こんなことができる!!」新しい方法の気づき

【考察】

- ・きっかけは飼育していたミノムシで、水の色が変わったのは「ミノムシの糞」なのか？違う物なのか？の話し合いで盛り上がり、原因が「ミノムシの糞」だったら面白いと思っている子どもが多かったので、違うと分かった時は残念がっていたが、「ならなぜか？」と、理由を探し始めた。そこから、いろいろな葉で色水を作り、葉から画用紙や花紙・砂糖に、また途中からは氷作りにも発展して、最終的には、複数の色を合わせて違う色を作り出すことに夢中になっていった。
- ・4歳児は、④やってみて気づくことが多く、図鑑を見たり調べたりするよりは、すぐに行動に移して試したい気持ち強い。五感に基づいて気づいたこと（見たり聞いたり）を、すぐに実践して変化を楽しむ姿が多く見られ、そこから試行錯誤を繰り返していた。途中で止まってしまう活動や思いもあったが、自分たちでこうしたいという強い思いがあり、⑦「こんなことができた」⑧「こんなことができるのでは？」と繰り返していくことで、確信に変わっていくこともあり、疑問が解けることを楽しんでいる姿も見られた。
- ・子どもたちが疑問に思ったことを、すぐに考えたり試したりできるように環境を整えておくことの大切さを、改めて感じる事ができた。また子どもたちの、「面白い・もっとこうしたい」という思いを大切にしていきながら、子どもたちが気づいたことを子どもたちの力で確信に変えていけるよう、子どもの姿をよく観て理解し、援助していきたい。